

ふるしき展東京巡回報告



2007年1月13日(土)～20日(土)に「Ö-FUROSHIKI展」の東京巡回展を京都展に続き開催しました。会場は京都展でお世話になった宮井(株)の東京店で行いました。京都展終了後、作品を追加して下さった会員さんも多く、全体として作品数も増えて京都展にもまして充実した展示となりました。



来場者も芸術系大学の学生、百貨店関係の方々、会場が日本橋であることもあり繊維関係の方々など多くの方々に鑑賞していただきました。ふるしきの作品はもちろん、会場構成も大変好評を得る事ができました。会場を提供していただいた宮井(株)やセッティングを手伝っていただいた会員さんにこの場をお借りして、お礼を申し上げます。



また、わたなべ理事長の推薦により、このふるしき展に参加された会員の中から13名が選抜され、シルクロードプロジェクト2007企画展の「包みの文化・FUROSHIKI展」として約半年間かけてアジア諸国を巡回することも決定しました。



今後の「Ö-FUROSHIKI展」の展開としては、2007年9月11日から24日まで、韓国釜山のCraft Storyにて「包む布(Wrapping Cloth)展」と名称を変えての巡回展として韓国のポチャギ作家も参加していただく予定です。これは、韓国での展覧会に少しでも多くの韓国の方々に来ていただきたいということと、今回の招待作家さんたちと次のステップについて話し合い、2008年度の日本での日韓交流展へ繋げたい目的もあります。今回行う予定の展覧会では、ふるしきのつみ方講座などのイベントも計画中です。

(大高 亨)

interior lifestyle 展レポート

Tokyo Big Sight, West Hall 1-4 6-8 June 2007

●TDAメンバーの活躍「インテリア・ライフスタイル展」出展ブース報告 (撮影 杉山哲三・志智俊介)

ket & KET

日本毛布工業組合:OSAKA/IZUMIOHTSU ●TDAメンバー:L. F. Planning 杉山哲三



日本の毛布の生産の98%が大阪/泉大津産地で生産していることを知っている人は少ない。従来、専門問屋のOEMで製造してきた。しかし、今日ご多分に漏れず中国への生産シフト、羽毛布団人気、冷暖房設備の普及などにより毛布産地への注文は著しく減少している。業者も一時期、何百件もあった機屋が今では1/20程度。大手寝装ブランドメーカーと取引している先は残っているが年々減少、まして、小さい企業は生きるか、死ぬかを追われている。

●産地組合が生き残りをかけ新しい分野へ進出を試みる。
既存の生産設備を活かして、どう新しい分野に立ち向かうか、産地のやる気のあるメーカー4社 アリタ毛織(株)/川崎毛織(株)/横井繊維工業(株)/日の出毛織(株)が昨年よりket & KETのブランドを立ち上げ、'06年秋のギフトショーに発表。しかし、客層及び販売時期のタイミングに合わず反応が悪かった。更に織組織、糸使い、色柄を工夫し、今回のライフスタイル展に出展。ストックビジネスの初めての体験など苦労は多かったが、一方で自主企画～モノ作り～販売まで自意識が出てきている。OEM型の産地メーカーが前へ出て行くことは簡単なコトではない。まして、毛布織機はそのままでは決まりきった毛布しかできない。生産者の命は先づは「独自の技術」があつてのこを痛感させられる。

minimynimo

メーカー5社とKONNO DESIGN STUDIOとのコラボレーション ●TDAメンバー:K. D. S 今野文雄



「minimynimo」は2004年に商標登録(登録者:今野文雄)されたブランドとしてスタートしました。当初は一社のみギフトショー出展でしたが、2005年目からは4社に増えトータルなインテリアホームファッション(寝装・カーテン・タオル・照明・インテリアアクセサリ

など)を考えたブランドとして歩みはじめました。2007/6月 今回のインテリアライフスタイル展の出展については、ニューアイテム「minimynimo - baby」「minimynimo - sport」の発表を兼ねた初めての出展でした。特に「minimynimo - sport」は、メーカーが開発した特殊素材を使ったニューアイテムでもあり9月のギフトショー前の発表になりました。

基本的に「minimynimo」は、メーカーと商品開発を行ないメイドインジャパンであることが重要なキーワードでありコンセプトでもあります。未だ、多くの問題点がありますがデザイン活動の一つとして皆さんと一致協力してブランド育成に努めたいと考えております。